授　業　計　画

三草会札幌看護専門学校　　第５期生

目　　次

１．年間授業計画 …… １Ｐ

２．３年間の科目時間配分 …… ２～３Ｐ

３．科目進度表 …… ４～６Ｐ

４．科目概要 …… ７～１８Ｐ

５．成績評価、単位の認定に関する事項 …… １９～２１Ｐ

６．履修科目

１）１年次履修科目

（１）前期 …… １～４３Ｐ
（２）後期 …… ４４～８６Ｐ

２）２年次履修科目

（１）前期 …… １～４９Ｐ
（２）後期 …… ５０～７６Ｐ

３）３年次履修科目

（１）前期 …… １～２Ｐ
（２）後期 …… ３～１４Ｐ

年間授業計画

項　　目				１年次	２年次	３年次
年　間　週　数				５３	５３	５３
登校しない日	長　期　休　暇　週（日）			10(50)	10(50)	8(40)
	休　祝　祭　日			１１２	１０３	１０７
	小　　計			１６２	１５３	１４７
年間授業可能日数				２０３	２１２	２１８
年間授業時間単位（時間）	分　野	指定単位	学　則	１年次	２年次	３年次
	基礎分野	１３	１３(375)	9(255)	3(90)	1(30)
	専門基礎分野	２１	21(510)	１４(330)	6(150)	1(30)
	専門分野 Ⅰ	１３	１４(450)	１１(330)	2(90)	1(30)
	専門分野 Ⅱ	３８	３８(1305)	7(135)	２１(720)	１０(450)
	統合分野	１２	１２(375)	1(15)	3(90)	8(270)
	小　計	９７(3000)	９８(3015)	４２(1065)	３５(1140)	２１(810)
	時間内訳	学科 3015	実習 1035			
	教科外活動			９６	７０	８０

時間割　　月曜日～金曜日

講義／時間	１講目	２講目	３講目	４講目
時　間	09:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10

1 時間　　45 分　　1 講義　　90 分(2 時間)
1 日 6～8 時間　　1 週 30～40 時間

実習時の時間　　実習は基本月曜日～金曜日　休憩時間は実習施設に準じる

時　間　帯	午　　前	昼　休	午　　後
時　　間	０９：００ ～ １２：００	１２：００ ～ １３：００	１３：００ ～ １６：００

1 単位の換算規定

1. 講義及び演習は、15 時間～30 時間をもって 1 単位とする。
2. 実技、実験及び実習は 30 時間～45 時間をもって 1 単位とする。
3. 臨地実習は 45 時間をもって 1 単位とする。

3年間の科目時間配分

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	13	1	看護物理学	1	30			30
			2	論理学	1		30		30
			3	国語表現法	1	15			15
			4	英語Ⅰ	1	30			30
			5	英語Ⅱ	1		30		30
			6	情報科学と統計	1		30		30
			7	心理学	1	30			30
			8	コミュニケーション	1	30			30
			9	文化人類学	1	30			30
			10	倫理学	1	30			30
			11	音楽と表現技法	1	30			30
			12	社会学	1	30			30
			13	教育学	1			30	30
		13		**小計**	**13**	**255**	**90**	**30**	**375**
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	14	解剖生理学Ⅰ	1	15			15
			15	解剖生理学Ⅱ	1	30			30
			16	解剖生理学Ⅲ	1	30			30
			17	解剖生理学Ⅳ	1	30			30
			18	病理学総論	1	15			15
			19	生化学	1	30			30
			20	人の生活と食事	1	15			15
			21	栄養学	1	15			15
	疾病の成り立ちと 回復の促進		22	薬理学	1	30			30
			23	臨床検査	1		15		15
			24	微生物学	1	30			30
			25	病態と治療Ⅰ	1	30			30
			26	病態と治療Ⅱ	1	30			30
			27	病態と治療Ⅲ	1		30		30
			28	治療法概論	1		30		30
	健康支援と 社会保障制度	6	29	総合医療論	1			30	30
			30	社会福祉	1		30		30
			31	地域医療論	1		15		15
			32	関係法規	1		30		30
			33	リハビリテーション	1	15			15
			34	公衆衛生学	1	15			15
		21		**小計**	**21**	**330**	**150**	**30**	**510**
専門分野Ⅰ	基礎看護学	11	35	看護学概論	1	30			30
			36	共通援助技術	1	15			15
			37	生活援助技術Ⅰ	1	30			30
			38	生活援助技術Ⅱ	1	30			30
			39	生活援助技術Ⅲ	1	30			30
			40	フィジカルアセスメント技術	1	30			30
			41	診療援助技術	1	30			30
			42	看護展開技術	1	30			30
			43	生活援助技術実践	1	30			30
			44	臨床看護総論	1	30			30
			45	看護研究	1			30	30
	臨地実習	3	46	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			45
			47	基礎看護学実習Ⅱ	2		90		90
		14		**小計**	**14**	**330**	**90**	**30**	**450**

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
専門分野Ⅱ	成人看護学	6	48	成人看護学総論Ⅰ	1	15			15
			49	成人看護学総論Ⅱ	1	30			30
			50	成人看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			51	成人看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			52	成人看護学方法論Ⅲ	1		30		30
			53	成人看護学方法論Ⅳ	1		30		30
	老年看護学	4	54	老年看護学総論Ⅰ	1	15			15
			55	老年看護学総論Ⅱ	1	30			30
			56	老年看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			57	老年看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	小児看護学	4	58	小児看護学総論Ⅰ	1	15			15
			59	小児看護学総論Ⅱ	1		30		30
			60	小児看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			61	小児看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	母性看護学	4	62	母性看護学総論Ⅰ	1	15			15
			63	母性看護学総論Ⅱ	1		30		30
			64	母性看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			65	母性看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	精神看護学	4	66	精神看護学総論Ⅰ	1	15			15
			67	精神看護学総論Ⅱ	1		30		30
			68	精神看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			69	精神看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	臨地実習	6	70	成人看護学実習Ⅰ	2		90		90
			71	成人看護学実習Ⅱ	2		90		90
			72	成人看護学実習Ⅲ	2			90	90
		4	73	老年看護学実習Ⅰ	2		90		90
			74	老年看護学実習Ⅱ	2			90	90
		2	75	小児看護学実習	2			90	90
		2	76	母性看護学実習	2			90	90
		2	77	精神看護学実習	2			90	90
		38		**小計**	**38**	**135**	**720**	**450**	**1305**
統合分野	在宅看護論	4	78	在宅看護論総論Ⅰ	1	15			15
			79	在宅看護論総論Ⅱ	1		30		30
			80	在宅看護論方法論Ⅰ	1		30		30
			81	在宅看護論方法論Ⅱ	1		30		30
	看護の統合と実践	4	82	看護管理	1			30	30
			83	安全教育	1			15	15
			84	災害看護	1			15	15
			85	看護技術統合実践	1			30	30
	臨地実習	4	86	在宅看護論実習	2			90	90
			87	看護統合実習	2			90	90
		12		**小計**	**12**	**15**	**90**	**270**	**375**
合計		**98**		**合計**	**98**	**1065**	**1140**	**810**	**3015**

2020年度　科目進度表

第1学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	看護物理学	1	30	■	■	■	■	■	■								
	国語表現法	1	15								■	■	■				
	英語Ⅰ	1	30		■	■	■	■	■	■						FirstAid!EngulishforNursing	金星堂
	心理学	1	30	■	■	■	■	■								社会福祉シリーズ　心理学2　心理学理論と心理的支援　第2版	弘文堂
	コミュニケーション	1	30	■	■	■	■	■									
	文化人類学	1	30						■	■	■	■					
	倫理学	1	30			■	■	■	■							系統看護学講座　別巻　看護倫理	医学書院
	音楽と表現技法	1	30			■	■	■	■	■							
	社会学	1	30				■	■	■	■	■					新・社会福祉士養成講座　第3版　社会理論と社会システム	中央法規
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	15	■	■											解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅱ	1	30		■	■	■	■								解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅲ	1	30			■	■	■	■	■						解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅳ	1	30								■	■		■	■	解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	病理学総論	1	15	■	■	■	■									病理学　疾病の成り立ちと回復の促進①	医学書院
	生化学	1	30	■	■	■	■	■	■							わかりやすい生化学	ヌーベルヒロカワ
	栄養学	1	15			■	■	■	■	■						栄養学　人体の構造と機能③	医学書院
	人の生活と食事	1	15							■	■	■				わかりやすい栄養学	ヌーベルヒロカワ
	薬理学	1	30	■	■	■	■	■								わかりやすい薬理学	ヌーベルヒロカワ
	微生物学	1	30	■	■	■	■		■	■						微生物学疾病の成り立ちと回復の促進④	医学書院
	病態と治療Ⅰ	1	30		■	■	■	■	■	■						系統看護学講座　運動器　成人看護学⑩ 系統看護学講座　循環器　成人看護学③ 系統看護学講座　呼吸器　成人看護学②	医学書院
	病態と治療Ⅱ	1	30			■	■	■	■	■	■	■				系統看護学講座　消化器　成人看護学⑤ 系統看護学講座　腎・泌尿器　成人看護学⑧ 系統看護学講座　内分泌・代謝　成人看護学⑥ 系統看護学講座　アレルギー膠原病感染症　成人看護学⑪ 系統看護学講座　血液・造血器　成人看護学④	医学書院
	リハビリテーション	1	15			■	■	■								系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護	医学書院
	公衆衛生学	1	15		■	■										系統看護学講座　公衆衛生　健康支援と社会保障制度②	医学書院
専門分野Ⅰ	看護学概論	1	30	■	■	■	■	■	■							系統看護学講座　看護学概論　基礎看護学①	
	共通援助技術	1	15	■	■	■										系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　基礎看護学②・③	医学書院
	生活援助技術Ⅰ	1	30			■	■	■	■	■	■					系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	生活援助技術Ⅱ	1	30	■	■	■	■	■								系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　基礎看護学②・③	医学書院
	生活援助技術Ⅲ	1	30							■	■	■	■	■		系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	フィジカル アセスメント技術	1	30								■	■	■	■	■	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②	医学書院
	診療援助技術	1	30									■	■	■	■	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	看護展開技術	1	30								■	■	■	■	■	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	ヌーベルヒロカワ
	生活援助技術実践	1	30									■	■	■	■		
	臨床看護総論	1	30						■	■	■	■				系統看護学講座　臨床看護総論　基礎看護学④	医学書院
専門分野Ⅱ	成人看護学総論Ⅰ	1	15						■	■	■	■				系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①	医学書院
	成人看護学総論Ⅱ	1	30							■	■	■	■	■	■	系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①	医学書院
	老年看護学総論Ⅰ	1	15						■	■	■	■				系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	老年看護学総論Ⅱ	1	30							■	■	■	■	■	■	系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	小児看護学総論Ⅰ	1	15								■	■	■			系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	母性看護学総論Ⅰ	1	15										■	■	■	系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学①	医学書院
	精神看護学総論Ⅰ	1	15										■	■	■	新体系　看護学全書　精神看護学① 精神看護学概論　精神保健	メヂカルフレンド
統合	在宅看護学総論Ⅰ	1	15										■	■	■	系統看護学講座　統合分野　在宅看護論	医学書院
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰa	1	15						■								
	基礎看護学実習Ⅰb		30											■			

2020年度　科目進度表

第2学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	論理学	1	30					■	■		■	■		■			
	英語Ⅱ	1	30					■	■		■	■				FirstAid!EngulishforNursing(英語Ⅰで使用した)	金星堂
	情報科学と統計	1	30	■		■	■	■	■		■					医療系のための情報リテラシー	東京図書
専門基礎分野	臨床検査	1	15	■		■										系統看護学講座　別巻　臨床検査	医学書院
	病態と治療Ⅲ	1	30	■		■										系統看護学講座　女性生殖器　成人看護学⑨ 系統看護学講座　脳･神経　成人看護学⑦ 系統看護学講座　眼　成人看護学⑬ 系統看護学講座　皮膚　成人看護学⑫ 系統看護学講座　歯･口腔　成人看護学⑮ 系統看護学講座　耳鼻咽喉　成人看護学⑭	医学書院
	治療法概論	1	30						■		■	■				系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　臨床外科看護総論	医学書院
	社会福祉	1	30	■		■	■	■	■		■					系統看護学講座　社会保障･社会福祉　健康支援と社会保障制度③	医学書院
	地域医療論	1	15	■		■											
	関係法規	1	30								■	■		■		系統看護学講座　看護関係法令　健康支援と社会保障制度④	医学書院
専門分野Ⅱ	成人看護学方法論Ⅰ	1	30	■		■	■									系統看護学講座　呼吸器　　成人看護学② 系統看護学講座　循環器　　成人看護学③ 系統看護学講座　消化器　　成人看護学⑤	医学書院
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30	■		■	■									系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論	医学書院
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	■		■	■									系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 系統看護学講座　運動器　成人看護学⑩ 系統看護学講座　脳･神経　成人看護学⑦ 系統看護学講座　内分泌･代謝　成人看護学⑥ 系統看護学講座　腎･泌尿器　成人看護学⑧ 系統看護学講座　アレルギー膠原病感染症　成人看護学⑪	医学書院
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30			■	■	■	■		■	■				系統看護学講座　別巻　がん看護学･緩和ケア 系統看護学講座　血液･造血器　　成人看護学④ 系統看護学講座　別巻　救急看護学	医学書院
	老年看護学方法論Ⅰ	1	30	■		■	■	■								系統看護学講座　老年看護学･老年看護病態･疾患論 系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30			■	■	■	■							系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	小児看護学総論Ⅱ	1	30			■	■	■								系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	小児看護学方法論Ⅰ	1	30					■			■	■		■	■	系統看護学講座　小児臨床看護各論　小児看護学②	医学書院
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30											■	■	系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	母性看護学総論Ⅱ	1	30			■	■	■	■		■	■				系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学①	医学書院
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30			■	■	■	■		■	■		■	■	系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学②	医学書院
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30											■	■	系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学② 系統看護学講座　女性生殖器　　成人看護学⑨	医学書院
	精神看護学総論Ⅱ	1	30	■		■	■	■								新体系　看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論･精神保健 新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人への看護	メヂカルフレンド
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30			■	■	■	■		■	■				新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人への看護	メヂカルフレンド
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30									■		■	■	新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人への看護	メヂカルフレンド
	在宅看護論総論Ⅱ	1	30					■	■		■	■		■	■	系統看護学講座　統合分野　在宅看護論	医学書院
	在宅看護論方法論Ⅰ	1	30									■		■	■	系統看護学講座　統合分野　在宅看護論	医学書院
	在宅看護学方法論Ⅱ	1	30											■	■	系統看護学講座　統合分野　在宅看護論	医学書院
臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	90		■												
	成人看護学実習Ⅰ	2	90						■	■	■						
	成人看護学実習Ⅱ	2	90							■	■						
	老年看護学実習Ⅰ	2	90						■	■	■						

2020年度　科目進度表

第3学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	教育学	1	30								■						
専門基礎	総合医療論	1	30								■					系統看護学講座　総合医療論　健康支援と社会保障制度①	医学書院
専門分野Ⅰ	看護研究	1	30	■							■		■			黒田裕子の看護研究step by step(第4版) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方	学研
統合分野	看護管理	1	30								■					系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践①	医学書院
	安全教育	1	15	■							■					系統看護学講座　統合分野　医療安全　看護の統合と実践②	医学書院
	災害看護	1	15								■					ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践③ 災害看護	メディカ出版
	看護技術統合実践	1	30								■						
臨地実習	成人看護学実習Ⅲ	2	90		■	■	■	■	■	■							
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	■	■	■	■	■	■	■							
	小児看護学実習	2	90	■	■	■	■	■									
	母性看護学実習	2	90	■	■	■	■	■	■	■							
	精神看護学実習	2	90	■	■	■	■	■	■								
	在宅看護学実習	2	90	■	■	■	■	■	■								
	看護統合実習	2	90								■	■					

科目概要

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	人間の心の発達と心の動きについて学び、自己と他者を心理学の立場から理解する能力を養う 心理学の基礎知識、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、人間一般の行動の法則性を理解することを目的とする	講義　演習 1. 心理学とは何か 2. 人の心理的理解 3. 日常生活と心の健康 4. 心理的支援の方法と実際 5. 人の成長・発達と心理 6. KJ法 グループワーク
		コミュニケーション	1	30	人間関係の基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションやグループダイナミクスの基礎について学ぶ又、コミュニケーションに関する自己理解を深めた上で、他者とコミュニケーションをとるための表現・傾聴技法について学び、円滑なコミュニケーションを生む要因について理解を深める	講義　演習 1. コミュニケーションとは 2. 自己理解とコミュニケーション 3. 他者理解とコミュニケーション 4. 話し方・聞き方のコミュニケーション 5. コミュニケーション技法の活用 6. コミュニケーションスキルトレーニング 7. 集団活動とコミュニケーション 8. 看護コミュニケーション事例検討
		文化人類学	1	30	環境・地域・社会との文化的多様性のあり方について理解し、文化人類学を通じた個人と文化の関係性、、観光と文化の関係性について学ぶ	講義　作業学習 1. 文化人類学とは 2. フィルドワーク 3. 地域環境・社会・社会組織 4. 生業形態・世界観 5. 言語・通過礼儀・健康 6. 観光と植民地主義 7. 観光と文化保存 8. 持続可能な観光開発
		倫理学	1	30	倫理学の歴史、人間と世界との関わり方を規定する道徳的価値や道徳的原則、倫理学上の諸問題を学ぶ 生命倫理・職業倫理の考え方や知識を深める	講義　演習 1. 社会の中の倫理 2. 様々な倫理思想 3. 事例研究の交流 4. 人間と動物の違い 5. 死生観について 6. 社会人と倫理観
		音楽と表現技法	1	30	音・音楽と表現の関連性について、音楽遊びや合唱、創作ダンス等、様々な表現活動を通して理解する豊かな感性を養うとともに自己表現力を磨き、心身を開放する方法について考察する	実技　演習 1. 音・音楽とこころとからだ 2. 表現が育つ課程 3. 日本の音楽 4. 様々な国の音楽遊び 5. 想像力を育む音楽活動 6. 音感を育む音楽活動 7. 言葉と歌唱 8. 音・音楽と身体表現
		社会学	1	30	社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する 最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する	講義 1. 社会学とは 2. 社会システムと社会システムの安定 3. 社会変動とは何か 4. 生活、家族、地域について 5. 社会的行為　役割 6. 社会集団と組織　社会的ジレンマ 7. 社会関係資本と社会的連帯 8. 社会問題の理解
		教育学	1	30	教育の本質、機能と教育が人間形成に果たす役割を学習し自己教育につなげる	講義 1. 教育の意義 2. 教育における楽観主義と悲観主義 3. 教育と素質・環境 4. 教育作用の教育学 5. 人間の成長と愛 6. 教育愛とエロス・アカペー 7. 教育愛の総合性 8. 倫理観の類型 9. 道徳性の発達理論 10.道徳教育の方法原理

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15	身体の構造と機能の概論を理解する	講義 1. 構造と機能 2. 人体の細胞 3. 人体の組織 4. 構造と機能からみた人体
		解剖生理学Ⅱ	1	30	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する	講義 1. 骨格系・筋系 2. 循環器系 3. 呼吸器系
		解剖生理学Ⅲ	1	30		講義 1. 消化器系 2. 腎・泌尿器系 3. 内分泌・代謝系 4. 血液・免疫系
		解剖生理学Ⅳ	1	30		講義 1. 生殖器系 2. 脳・神経系 3. 感覚器系
		病理学総論	1	15	病気の原因と病理的な変化について深め疾病の特徴や進行の過程を理解する	講義 1. 病理学で学ぶこと 2. 細胞・組織の障害と修復 3. 循環障害 4. 炎症と免疫・感染症 5. 代謝障害 6. 老化と死 7. 先天障害と遺伝子異常 8. 腫瘍
		生化学	1	30	人体の構成成分である化学物質の性状とその代謝について知り生命現象のしくみを科学的に理解する	講義 1. 生体分子 2. タンパク質の性質 3. 酵素の性質と働き 4. 生体内における糖質の代謝 5. 生体内における脂質の代謝 6. 生体内におけるアミノ酸及びタンパク質の代謝 7. 生体内における核酸の役割
		人の生活と食事	1	15	食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う	講義　演習 1. 日常生活と栄養 2. 栄養指導の過程 3. 食事療法の実際 消化器系、循環器系　呼吸器系 代謝系　腎疾患 4. ライフステージと健康教育
		栄養学	1	15	生命維持に必要な栄養素とそのエネルギー代謝にについて学び、健全な生命活動を営むための基礎知識を学ぶ	講義 1. 栄養学と看護 栄養学状態の評価・判定 2. 栄養素の種類とはたらき 3. エネルギー代謝 4. 栄養の体内代謝 5. 栄養ケア・マネジメント 6. ライフステージと栄養

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法について学ぶ 薬理学全般における基礎知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ 薬物医療事故の事例から看護師の役割を深める	講義　演習 1. 薬理学総論 2. 末梢神経系作用薬 3. 循環器系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 炎症免疫系作用薬 6. 呼吸器系作用薬 7. 消化器系作用薬 8. ホルモン系・生殖器系作用薬 9. 抗感染症薬 10.抗悪性腫瘍薬・漢方薬 11.薬の取り扱いと医療事故 事例提供
		臨床検査	1	15	医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ	講義 1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割 3. 主な臨床検査 4. 放射線療法
		微生物学	1	30	微生物の種類と特徴を理解する 感染拡大を防ぐための病原微生物の正しい滅菌、消毒法を理解する 病原微生物が引き起こす感染症の症状とその予防法について理解する	講義 1. 微生物学の基礎 2. 感染に対する生体防御機構 3. 感染の予防 4. 感染症各論 日和見感染・院内感染症 消化器感染症・食中毒 尿路感染症・性感染症 肝炎・微生物と腫瘍 血液の感染症・呼吸器感染症 母子・小児感染症　脳神経感染症 高齢者感染症
		病態と治療Ⅰ	1	30	疾患の病態、治療検査を理解し、その疾患をもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う	講義 病態生理・診断・治療検査 1. 運動器系 2. 循環器系 3. 呼吸器系
		病態と治療Ⅱ	1	30		講義 病態生理・診断・治療検査 1. 消化器系 2. 腎泌尿器系 3. 代謝・内分泌・ｱﾚﾙｷﾞｰ 4. 血液・免疫系
		病態学と治療Ⅲ	1	30		講義 病態生理・診断・治療検査 1. 生殖器系 2. 脳・神経系 3. 感覚器系
		治療法概論	1	30	外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患をもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う	講義 1. 外科患者の病態の基礎 2. 外科的治療を支える分野 3. 外科的治療の実際 4. 救急処置法 5. 放射線療法

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	30	医療を取り巻く現状と諸問題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う	講義　演習 1. 医療の歩みと医療観の変遷 2. 科学技術の進歩と現代 3. 医療現場で重要視されている諸問題 4. 医療を見つめ直す新しい視点 5. 保健医療福祉の潮流 6. 私たちの健康と生活
		社会福祉	1	30	社会福祉の意義と概念、社会福祉制度と社会保障制度について学び、保健医療福祉の関連を理解する	講義 1. 社会福祉の概念と発達 2. 社会保障制度と社会福祉 3. 医療保障 4. 介護保障 5. 所得保障 6. 公的扶助 7. 社会福祉の分野とサービス
		地域医療論	1	15	地域における地域看護活動を学び地域医療のしくみや医療と介護のつながり、継続看護のための連携や各専門職の協働について理解する	講義 1. 地域医療の概要 地域看護活動の概要 地域の人々の健康と保健活動 地域看護を取り巻く政策 他職種との連携 2. 地域看護活動の方法 活動の対象と場 目的・方法 3. 地域看護活動の実際 地域行政機関の活動 病院における活動 職場における活動 学校における活動 地域における活動
		関係法規	1	30	保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ	講義　演習 1. 社会福祉、社会保障制度との関連と法律の理念 2. 日本の社会保障制度 医療・介護保険制度　年金制度 3. 医事・薬事法規 4. 社会福祉関係法規 5. 保健予防関係法規 6. 医療過誤と裁判 事例提供
		リハビリテーション	1	15	リハビリテーションの意義と方法について学び身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける	講義　実習 1. リハビリテーションの定義と概念 2. 障がい者の分類と構造 3. リハビリテーション医療とシステムとチーム医療 4. 運動器系の障害とリハビリテーション 5. 検査手技 6. 中枢神経系のリハビリテーション 7. 呼吸・循環系障害とリハビリテーション 8. トランスファー車椅子からベット 起き上がり 他動可動域運動 事例に見る援助方法　実習
		公衆衛生学	1	15	公衆衛生活動のもつ特性について理解し、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける	講義 1. 公衆衛生とは 2. 健康と環境 3. 疫学と健康指標 ヘルスプロモーション 4. 社会保障制度 5. 公衆衛生と国際協力 6. 対象別公衆衛生 7. 場面別公衆衛生 8. 健康危機管理

科目の教育概要

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	30	医療、看護の場面で関わるものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理及び医療機器の原理について理解し看護における科学的なものの見方を涵養する	講義 演習 1. 単位の換算 2. 体位交換の基礎理論 3. トルクの考え方と演習 4. 冷温罨法の物理学 5. 酸素ボンベの物理学 6. 点滴の基礎理論 7. 重量濃度・モル濃度 8. 内視鏡・超音波の原理
		論理学	1	30	日常言語の中にある論理の形式や構造を学び、自らの思考を順序立て整理して整合的に表現する力を身につける 対話の中に論理を入れて、優しいコミュニケーションのやり方を学ぶ	講義 演習 1. 論理学の目的・因果関係・縁起 2. コミュニケーション法・弁証法・対話法 3. 因果関係・ブッタの公式 4. 順序立てて説明する 5. 相対的な言葉(反対・矛盾) 6. 解りやすい表現. 7. 考えて書く・考察
		国語表現法	1	15	正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につけ、すべての学科の基礎となる国語力、国語表現力を養う	講義 演習 1. 日本語の基礎 2. 表記方法 3. 日本語表記と文章・ﾀｲﾄﾙの特徴 4. 小論文、論文、ﾚﾎﾟｰﾄの共通点と違いその書き方
		英語Ⅰ	1	30	医療に関わる基本的な英語用語を身につける 関係文書の読解力・活用力を高める 英語コミュニケーション能力を高める	講義 演習 1. 医療に関わる基本的な英語用語・演習 来院時の対応 問診 測定 検査 症状 薬の説明 案内院内等の会話
		英語Ⅱ	1	30	医療に関するメディアからの広汎な英文を学びながら医療に関わる英語用語を身につけ、英語の読解力・活用力をつけ英語コミュニケーション能力を高める	講義 演習 1. パラグラフとトピックセンテンスの関係構造 2. 要約文作成 3. ヒヤリング、フレーズリーディング 4. 講読
		情報科学と統計	1	30	医療・保健系データをもとに基礎的統計処理の理論と方法を理解し、機器操作により文書・発表物の作成・編集、プレゼンテーション能力を高める	講義 演習 1. Word 作表、履歴書作成 病院・イベント案内 2. Excel 基礎知識 表作成 関数式、早退、絶対参照 グラフと図形 ピポットテーブル 3. Power Point スライド作成 加工 編集 4. 統計の基礎 5. 検定の考え方 6. 対応のない2群の平均値の検定 7. 対応のある場合とカイ2乗検定 8. ノンパラメトリック検定 その他の検定例

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	看護の概念、目的、対象、機能と役割を理解し看護実践の基盤となる人間観、健康観を培う 看護理論の発展過程を学び、看護の理解を深める 看護倫理に関する基礎的知識を学ぶ	1. 看護の概念 2. 健康と看護 3. 看護の対象 4. 看護の機能と役割 5. 看護倫理 6. 看護理論
		共通援助技術	1	15	すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術を支えるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 技術の概念 2. 安全確保 3. 観察・記録 4. 感染防止 感染予防技術実習 ガウンテクニック 衛生学的手洗い 滅菌手袋の装着 5. 学習支援技術 6. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術
		生活援助技術Ⅰ	1	30	人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	食事 1. 食事援助の基礎知識 2. 食事援助 3. 非経口的栄養摂取の援助 技術実習 食事介助　口腔ケア 排泄 1. 自然排尿及び自然排便の基礎知識 2. 排泄援助の実際 3. 排泄を促す援助 技術実習 便器・尿器の挿入
		生活援助技術Ⅱ	1	30	人間にとっての環境、活動、休息、睡眠の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 人と環境、療養生活環境の基礎知識 2. 環境の調整 療養環境を整える援助技術実習 病室の環境調整 ベッドメーキング 3. 基本的活動の基礎知識 4. 活動の援助 技術実習 体位交換　移乗移送 5. 休息・睡眠・安楽の援助 技術実習 温罨法　冷罨法
		生活援助技術Ⅲ	1	30	人間にとって身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 衣生活、身体清潔の基礎知識 2. 衣生活の援助 技術実習 寝衣交換 3. 清潔の援助 技術演習 全身清拭　手浴・足浴・洗髪
		ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術	1	30	ヘルスアセスメント必要とされる基礎的知識・技術・態度を身につける	1. ヘルスアセスメントの意義、技術 2. 系統別ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際 3. 身体各部の計測 技術実習 身体各部の計測 4. ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定の方法とアセスメントの基礎知識 技術実習 バイタルサインの測定と身体診査

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
		診療援助技術	1	30	対象の診療に伴う検査・治療・処置の基礎的知識・技術・態度を学ぶ	1. 診療、検査、処置介助の基礎知識 2. 呼吸、循環を整える基礎知識 吸入・吸引・排痰ケア 技術実習 AEDによる除細動 3. 与薬の基礎知識 4. 正しい与薬方法 経口与薬・点眼鼻・直腸内与薬 技術実習 点滴静脈注射・皮下注射 筋肉内注射・輸液ポンプ管理
		看護展開技術	1	30	対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的、論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ	1. 看護過程の概念 2. 看護過程の構成要素とプロセス 3. ヘンダーソンの看護理論にもとづく看護過程の展開 4. 紙上事例による看護過程展開・演習 経過別:回復期 事例 変形性膝関節症により人工膝関節全置換術を受けた患者の看護 50 歳代・女性
		生活援助技術実践	1	30	既習の知識、技術を活用し根拠に基づき、事例に応じた看護技術を倫理的態度で、安全・安楽に実践できる能力を習得する	生活援助技術試験 試験の方法 1. 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの既習済み援助技術から選択する 2. 1事例(患者)と、その事例による4つの状況設定を提供 3. 学生は試験実施日まで、グループ学習とし個人で4つの状況設定の援助計画書作成する 4. 試験日まで、グループで実習室を利用して練習する 試験 1つの状況設定を指定し実施 技術項目 1. 上半身清拭、寝衣交換 2. 洗髪、体位交換 3. 足浴、車椅子移乗移送 4. リネン交換、排泄介助(便器・尿器挿入)
		臨床看護総論	1	30	健康障害をもつ対象の状況に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を学ぶ	1. 健康障害のある対象家族の理解 2. 健康レベル別看護 急性期、慢性期、回復期、終末期の対象の特徴と看護 3. 主要症状別看護呼吸、循環、栄養・排泄、認知・知覚、安楽に関する症状のメカニズムと看護 4. 治療別看護 安静、食事、薬物、放射線療法リハビリテーションを受ける患者の看護
		看護研究	1	30	科学的・論理的思考を基盤とし、看護の質の向上に向けて研究に取り組むために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 看護研究の意義 2. 看護研究のプロセス 3. 事例研究

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学総論Ⅰ	1	15	成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ	1. 成人看護の機能と役割 2. 成人看護の対象 3. 成人看護に有用な理論
		成人看護学総論Ⅱ	1	30	成人期にある対象の生活および健康課題と成人保健の動向を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための対策を学ぶ	1. 社会環境と成人の生活 2. 成人保健の動向 3. 成人期に特徴的な健康課題と対策
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	急性期にある対象と家族の特徴を理解し、生命の維持と機能回復のために必要な看護を学ぶ	1. 急性期にある対象の看護 呼吸器障害をもつ患者の看護 循環器障害をもつ患者の看護 消化器障害をもつ患者の看護
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	周手術期にある対象と家族の特徴を理解し、周手術過程に応じた看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 周手術期にある対象の看護 創傷処置・無菌操作 ドレーン管理 （学内実習） 術後回復を促進する看護技術演習 酸素吸入・吸引・包帯法 （学内実習） 2. 紙上事例を用いた看護過程の展開演習 胃がん患者の看護(周手術期)
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	回復期にある対象と家族の特徴を理解し、生活の再構築し自立を促すために必要な看護を学ぶ 慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、自己管理を確立するために必要な看護を学ぶ	1. 回復期にある対象の看護 リハビリテーション看護の概要 運動機能疾患をもつ患者の特徴と看護 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護 2. 慢性期にある対象の看護 慢性期看護の概要 内分泌・代謝疾患をもつ患者の特徴と看護 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護 アレルギーをもつ患者の特徴と看護 膠原病をもつ患者の特徴と看護 感染症をもつ患者の特徴と看護
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30	がんをもつ対象と家族の特徴を理解し、長期化する療養生活を支えるために必要な看護を学ぶ 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、最後までその人らしく生きることを支えるために必要な看護を学ぶ 救急看護の概念と対象の特徴を理解し、救急搬送時に看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. がんをもつ対象の看護 がん医療の現状と臨床経過 緩和ケアの概要と看護 血液造血器疾患をもつ患者の特徴と看護 2. 終末期にある対象の看護 人間にとっての死 危篤時に特徴的な症状と看護 臨終時のケア 遺族ケア 3. 救急医療にある対象の看護 救急看護の概念 救急患者の観察・アセスメント 救急処置と看護 一次救命処置　心肺蘇生法演習

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ	1. 老年看護の目的・機能と役割 2. 老年看護の特徴 3. 発達課題 4. 老年看護の対象 演習：高齢者の模擬体験
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	高齢者を取り巻く社会情勢及び保健医療福祉対策を理解し、高齢者の療養生活の現状と看護が果たす役割を学ぶ	1. 高齢社会の統計的輪郭 2. 保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護 4. 高齢者の療養の場と看護 5. 老年看護に有用な看護理論 バトラー 生涯発達理論等 6. 高齢者の生活・療養の場
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30	高齢者に多い健康障害の特徴と健康回復及び終末期における看護を学ぶ	1. 高齢者の特徴的な疾患・症状・検査と看護 2. 高齢者に多い健康障害の特徴と疾患の病態・検査・治療 3. 身体可動性に障害をきたす疾患・要因と看護 4. 認知機能障害をきたす疾患・要因と看護 5. 高齢者の終末期における看護
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30	高齢の生活上の課題を科学的根拠に基づいて判断・解決する思考過程と、高齢者の生活支える援助技術を習得する	1. 高齢者の生活を支える援助技術 食事、排泄のアセスメントと援助技術 清潔のアセスメントと援助技術 歩行、移動のアセスメントと援助技術 コミュニケーション、生活リズムのアセスメントと援助技術 演習：食事・排泄・移動 2. 看護過程の展開 事例：終末期
	小児看護学	小児看護学総論Ⅰ	1	15	小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的と役割を学ぶ	1. 小児看護の理念・目的 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題と役割
		小児看護学総論Ⅱ	1	30	小児各期の成長発達・栄養の特徴を学ぶ 小児各期における生活の特徴を学びその家族を理解する 小児と親を支援するための法律、政策、母子保健対策を学ぶ	1. 小児の成長発達と評価 2. 小児各期の栄養 3. 小児各期の特徴と生活 4. 家族の特徴とアセスメント 5. 小児と家族を取り巻く社会
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害の病態、診断、経過、治療を学ぶ	1. 染色・先天異常、新生児の疾患 2. 代謝、内分泌疾患 3. 免疫・アレルギー疾患 感染症 4. 呼吸器、循環器系疾患 5. 消化器、血液造血器疾患 6. 悪性新生物、腎泌尿器疾患 7. 神経疾患 8. 事故・外傷・小児の救急蘇生法
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	病気や障害を抱く小児と家族の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護を実践するための知識・技術・態度を身につける	1. 病気・障がいをもつ小児と家族の看護 2. 状況に特徴づけられる看護 3. 疾病の経過と看護 4. 小児のアセスメント 5. 症状を示す小児の看護 6. 障がいのある小児と家族の看護 7. 検査・処置を受ける小児の看護 8. 事例を用いての看護過程演習 9. 看護過程の事例を用いた技術 環境・採尿・輸液管理

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学総論Ⅰ	1	15	母性看護の基礎となる概念を学び、母性看護の対象の特徴から母性看護独自の特徴を学ぶ	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ 3. リプロダクティブヘルス/ライツ 4. ヘルスプロモーション 5. 女性のライフサイクルと家族 6. 母性の発達・成熟・継承 7. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 8. 母性看護のあり方・倫理 9. 母性看護おける安全事故防止
		母性看護学総論Ⅱ	1	30	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護の課題と役割を学ぶ 女性のライフステージ各期の看護を学ぶ	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 2. 母性看護に関する組織と法律 3. 母子保健政策から見た現状 4. 母子看護の対象を取り巻く環境 5. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 6. リプロダクティブケア
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 妊娠・分娩・産褥の生理 2. 妊娠期の看護 3. 分娩期の看護 4. 産褥期の看護 5. 新生児の看護 6. 母性の看護技術 新生児の全身観察 身体計測・沐浴・寝衣 交換・臍処置・母体計測・妊婦体験・児心音聴取・保育器の取扱・黄疸計測
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を学び、健康障害の予防に必要な看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 異常妊娠・分娩・産褥の特徴と看護 2. 女性生殖器疾患 3. 女性生殖器疾患の看護 4. セルフケア能力に視点をおいた看護過程展開 産褥期にある対象
	精神看護学	精神看護学総論Ⅰ	1	15	精神看護の意義・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や障害をもつ人とその家族に必要な基礎知識を学ぶ	1. 精神看護の目的・目標 2. 精神看護の対象 人間関係論理論 3. 精神看護の役割・機能
		精神看護学総論Ⅱ	1	30	ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健医療福祉チームにおける精神保健活動について学ぶ	1. 精神保健の概念 2. 成長・発達と危機 3. 現代社会における精神保健 4. 精神保健活動の実際と今後の課題
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30	精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療方法について学ぶ	1. 精神障害の理解 2. 精神障害をもつ人に行われる主な検査・治療 3. 精神医学と他の領域との連携情報交換の必要性
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し患者・看護者関係の成立・発展の必要性を学ぶ。また、精神に障害をもつ人と、その家族の看護に必要な基礎知識・技術・態度を身につける	1. 精神障害患者の看護 精神に障がいのある対象の看護過程 統合失調症の慢性期の看護過程の展開 2. プロセスレコード

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
統合分野	在宅看護論	在宅看護論総論Ⅰ	1	15	在宅看護の対象と家族の特徴を理解し、在宅看護の機能と役割を学ぶ	1. 在宅看護の目的・特徴 在宅看護の概念 看護の役割基本姿勢 2. 在宅看護の対象者 療養者家族の理解 3. 療養者の権利保障
		在宅看護論総論Ⅱ	1	30	在宅看護に関する諸制度と、在宅看護展開方法の基礎知識を学ぶ	1. 在宅看護の制度 介護保険制度 訪問看護制度 地域包括支援システムの概要 2. 在宅看護の展開 在宅看護過程の展開方法 他職種との連携 在宅における事故発生の背景と予防・防止の実際 災害発生時の対応と看護
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30	在宅療養者と家族への看護が実践できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	在宅看護技術 1. 日常生活能力のアセスメントと援助技術 呼吸に関する援助 食事に関する援助 排泄に関する援助 移動移乗に関する援助清潔に関する援助 コミュニケーションに関する援助 見取りに関する援助 2. 在宅医療技術 在宅における医療処置・行為 褥創に関する援助技術 ストーマ管理に関する援助技術 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 疼痛緩和 学内演習 尿道留置カテーテルに関する援助技術 経管栄養中心静脈栄養
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	在宅療養者に多い健康障害の特徴を理解し在宅看護の実際を学ぶ 在宅看護における療養者と家族が抱えている課題を解決するための展開方法を身につける	在宅看護の実際 1. 訪問時の対応、マナー 2. 在宅看護介入時別の特徴 3. 在宅療養者の症状、状態別看護 4. 看護過程の展開 事例:慢性期

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	1	30	看護をマネジメントできる基礎的知識と方法を学ぶ	1. 看護マネジメントの意義 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護を取り巻く諸制度 4. マネジメントに必要な知識と技術
		安全教育	1	15	医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、事故の発生要因やその事故防止のための基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 事故防止の考え方 2. 看護職の責任と法的責任 3. 看護・医療事故予防と看護実践 4. 演習:KYT
		災害看護	1	15	災害看護の特徴を理解し、災害時に適切な看護が実践できる基礎知識・技術・態度を身につける	1. 災害の種類、災害サイクルと看護 2. 災害時の情報収集と災害医療に関する法律と政策 3. 災害時における他職種との連携支援システム 4. 被災地にうける災害時の看護活動 DMAT 5. 被災者の心理・支援者の心理の理解と援助 6. 災害時における健康危機管理 7. 災害時に必要な医療・看護技術体験学習 8. 病院災害と減災・防災マネジメント 9. 災害看護と国際看護 10. 災害看護における倫理と教育 11. 災害における救急法の実際 演習
		看護技術統合実践	1	30	既習の知識、技術、態度を統合し的確に対象を理解し速やかに看護展開ができる 対象に必要な看護を安全、安楽、自立を考えた看護援助が実践できる	演習 1. 4 事例提示 1) 事例をアセスメントし看護課題の抽出 2) 看護計画立案 3) 事例に必要な援助項目を抽出し技術演習計画を立案 4) 実施した結果を評価し自己の課題を明確にする

成績評価、単位の認定及び卒業に関する事項

（科目履修にかかわる制限）

第１条　次の各号の条件を満たした場合は、各号に掲げる科目履修に進むことができる。

（１）　１年次の基礎看護学実習Ⅰの単位修得ができた場合、２年次の科目

（２）　２年次の基礎看護学実習Ⅱの単位修得ができた場合、成人看護学実習Ⅰ、Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ

（成績評価の基準）

第２条　科目の成績評価は、１科目１００点満点として優(８０点以上)、良(７０点以上７９点以下)、可(６０点以上６９点以下)及び不可(６０点未満)とし、可以上を合格とする。

２　授業の出席時間数が別表第１号に掲げる各授業科目時間数の３分の２の出席をもって評価を受けることができる。

３　前項に達しなく評価を受けられない場合でも、その理由が正当なものであり、校長が必要と認めた補習を行った場合は、この限りではない。

４　科目試験の成績が第１項に規定する合格に達しない者に対しては、当該授業科目について再試験、再実習を行うことができる。

５　科目試験を欠席した者又は臨地実習の出席時間数が３分の２に達しないため評価を受けられない者で、その欠席の理由が正当であると認められる場合は、追試験又は追実習を行うことができる。

６　科目試験は１科目４５分で実施し、１００点満点とする。

７　授業時間とテスト時間の取扱については、テスト時間は講義時間に含まない。

８　科目試験は授業科目終了毎に行う。

９　１科目の試験は試験開始から１５分以内の遅刻は受験することができる。

１０　１科目を複数講師が担当する場合はその科目の３分の２以上の出席があれば試験を受けることができる。

１１　１科目を複数講師が担当する場合は、合計１００点満点とし、各々の講師に按分し複数講師全体による評価とする。

（追試験・追実習）

第３条　前条第５項の規定による追試験又は追実習を受けようとする者は、追試験願・追実習願（【成】第１様式）を期日までに提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　前条５項中の、その欠席の理由が正当であると認められる場合は、次に掲げる理由とする。ただし、事前連絡を原則とする。

（１）本人の病気による欠席の場合
（２）災害等不測の事態により通常の通学手段による交通事故障害の場合
（３）近親者の死亡（三親等）による場合
（４）感染症による出席停止など学校の指示による場合
（５）その他の校長が特別認めた場合

３　追試験又は追実習を受け、これに合格した場合の成績評価は学則第１１条第２項の規定にかかわらず、得点の８割とする。

４　追試験は１科目につき１回限り受けることができる。

５　追実習の実施期間は長期休暇中とする。

６　追試験で不合格になった場合は再試験、再実習を受けることができる。

（補習講義）

第４条　第２条第３項の規定による補習を受けるようとする者は、補習願（【成】第２様式）を提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　第２条第３項中の、その理由が正当なものと認めるとは、前条第２項の各号に掲げる場合と同様の理由による者とする。

（再試験・再実習）

第５条　第２条第４項の規定による再試験又は再実習を受けようとする者は、再試験願・再実習願（【成】第３様式）に再試験・再実習料を添えて期日まで提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　再試験又は再実習は、科目試験・実習成績が合格点に達しなかった者及び追試験の結果合格点に達しなかった者について行う。

３　１科目を複数の講師が担当する場合の再試験については、科目試験と同様に行う。

４　再試験は１科目において原則として１回限り受けることができる。

５　再試験又は再実習を受け、これに合格した場合の成績評価は第２条第１項の規定にかかわらず、可（６０点）とする。

６　再実習の実施期間は原則として長期休暇中とする。

７　再試料、臨地実習における再実習料は入学金・授業料・各種手数料等に関する事項に定める。

（単位不認定者の再履修）

第６条　学則１２条第４項の規定により再試験・再実習で成績評価が６０点未満で不合格となり単位が不認定となった授業科目を、再履修しようとする者は、当該科目につき再履修願（【成】第４様式）に入学金・授業料・各種手数料等に関する事項に定める再履修料を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。

但し、校長はその扱いについては別途決定することができる。

２　校長は再履修許可書（【成】第５様式）を当該学生に通知する。

３　再履修許可を受けた学生への履修の通達事項については別に定める。

（卒業認定）

第７条　校長は、学則第５条に規定する修学年限以上を在学し、学則別表第１号に掲げる授業科目の全ての単位を修得した者の卒業認定については、単位・卒業認定会議を経て認定する。

（成績の通知）

第８条　校長は、成績及び授業の出席状況を次の学年が始まる前に本人・保護者に成績を通知する。

（既修得単位の認定）

第９条　学則第１２条第２項に規定する単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定申請書（【成】第６様式）に、単位の認定を受けたい科目の単位収得の成績証明書及び教育内容が明確に記載されている講義実施要項・授業計画等を添付し、指定期日までに申請しなければならない。

２　校長は単位認定の申し出があった場合は、単位・卒業認定会議を経て単位を認定する。

３　校長は認定された科目については既修得単位認定通知書（【成】第７様式）により当該学生へ通知する。

４　認定された単位を学籍簿に記入する際は、評価欄に「認」を記す。